

[シラス]

1. 経年経過及び平成 24 年 1～2 月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 23 年は 1,718 トンとなりました。

志布志湾海域では平成 12 年の 1,407 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14 年は 396 トンまで減少しました。その後平成 15 年以降は増加傾向を示し、平成 19 年は 2,374 トンと好調に推移しましたが、その後は減少傾向を示し、860 トンとなりました。

今期の西薩海域はカタクチシラス主体に 24 トンの水揚げで、前年の 1,957 %、平年の 57 % でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体のウルメ混じりで 61 トンの水揚げがあり、前年の 93 %、平年の 127 % でした。

2. 平成 24 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域は前年並で平年を下回る、志布志湾海域は前年を上回り、平年を下回ると見られます。

(根拠)

西薩海域ではカタクチイワシ親魚の来遊状況や、本年 3 月の卵稚仔調査結果でのカタクチイワシ卵の出現状況から低調であった前年並で、平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域では、近隣県のシラス漁の漁模様や、太平洋側近隣県のカタクチイワシ親魚の来遊状況、直近の漁模様から、低調であった前年は上回るが平年は下回ると考えられます。

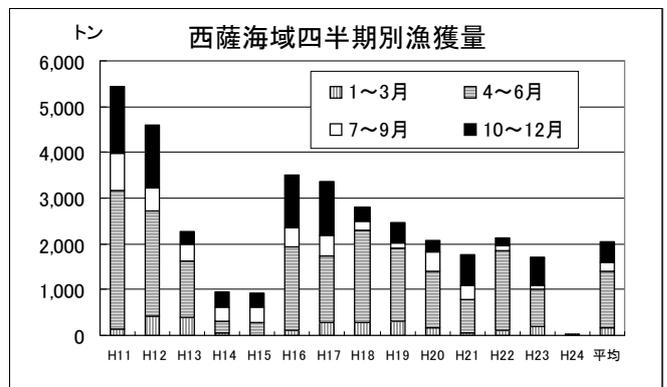
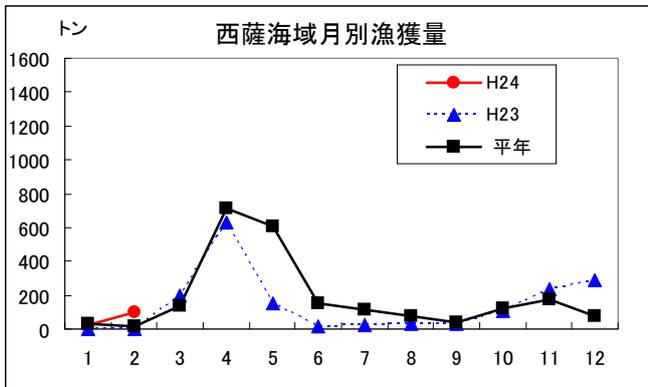


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

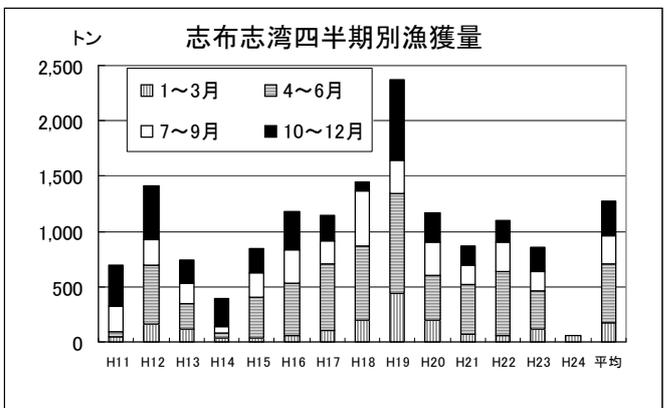
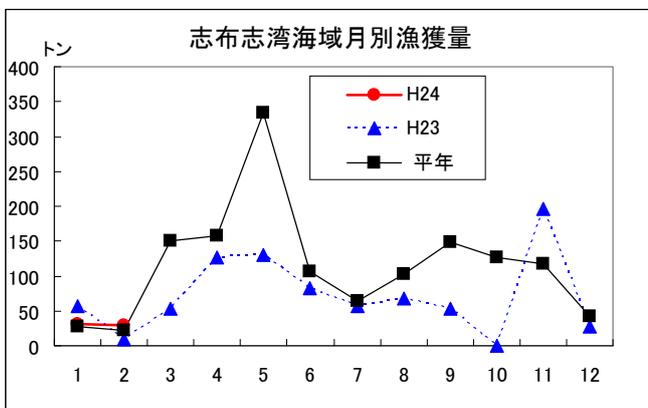


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去 5 年(平成 19～23 年)の平均値(AV)、平成 24 年 2 月末までの水揚げを使用。